

新曆明解

地

特37

429

館書圖京東

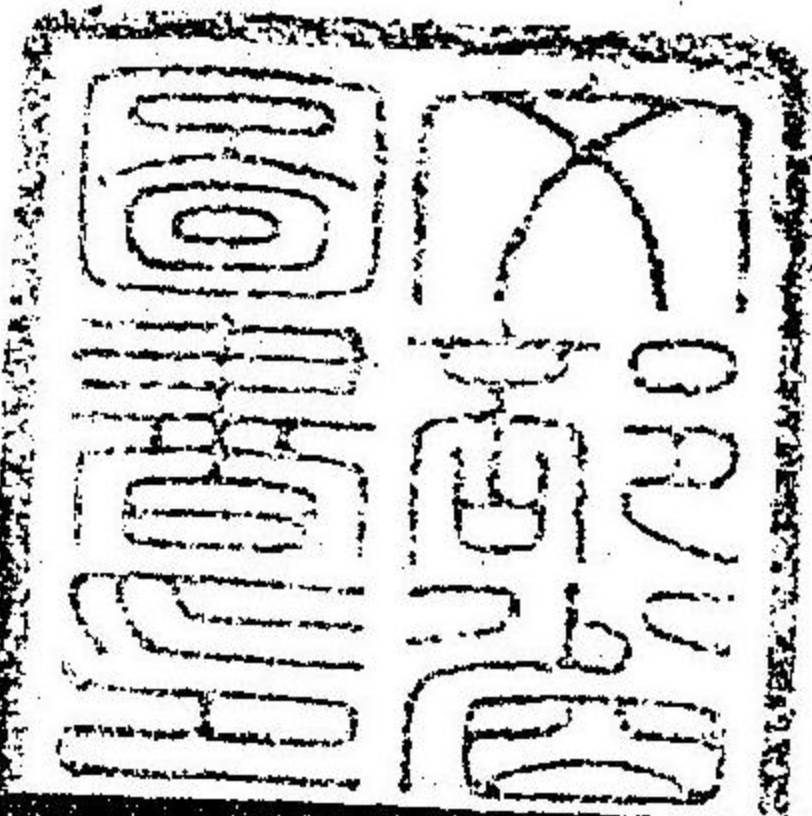
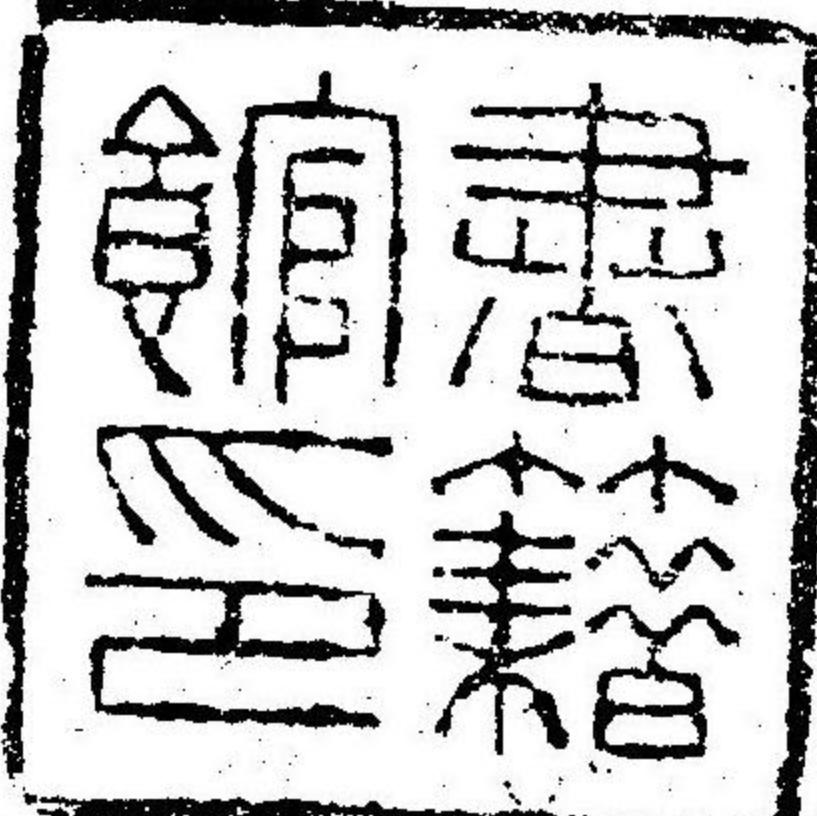
函六一 門新

架四一 部五一

號二一八五 類五

共  
貳  
本





東洋書局

新曆明解

渾天説の大畧

西洋の古説支那方今の説と渾天の説とい

ふ其説は曰く地球の如く天の中の一

一里三十三町かいて地球の如く天の中の一

懸り時辰五星を旋回し恒星其外

羅列其運動二様あり一つは東

西の向て周天三百六十度四分

と一晝夜の間に一周年も其運動の勢

新曆明解

の編

七



力地より遠き天の甚しく地は近きに従  
て漸く弱し恒星七曜去の力不誘おれきて  
共小旋回もと雖各々遠重の土塊おるを以て  
の天の運動も後と事を得る即恒星ハ  
五十一秒にして一度と六十分と六十分と一  
秒といふと一月ハ其弱勢不引らる故ハ一  
日ハ十三度十分ハ中位不ありて一日ハ  
五十九分八秒と後と一年にして一周と  
其他五星皆後ろにおる其數各大小あり則

地動説の公運の數と同ふ也即第二の運  
動ありとあるハプロノウスといふ人の  
説にして本邦支那にてハ現今まで用ひ西  
洋にてハ二百餘年前迄用ひの天説なり  
地動説の大畧

日ハ中徑三十八万餘里の大なる球あり  
ハ暗體にして其外面ハ黄雲を以包り又  
其雲の外を光氣と以包り即日上を放  
所の光明おとせり而其大球天の中央ハ靜



居して動く地と五星と其他の遊星と地球  
 暗體の土塊大小數十球あり其の光と  
 受けて照らされて明かる球をいふ  
 悉く日を旋回も日か最も近くして  
 る球と水星と云い其次に旋回する球を  
 金星といふ即宵の明星曉の明星の事お  
 次は旋回する球に吾人の住る世界お  
 て其球を地球といふ其徑三千二百三十七  
 里周一萬百八十五里日よと遠ざかる車三千  
 八百九十九万里おと一年おいて日と一周

此珠の別又五十分一の小なる球  
 ありて親の球と旋回もこれを月といふ次  
 小旋回する球と火星といふ佛家西洋とも  
 摩利支天といふて軍神とも星おと次  
 旋回する球の甚小にして七十三あり群集  
 されとも相觸る事おり次に旋回する球を  
 木星といふ地球より大なる車千四百倍也  
 月四つあり次に旋回する球を土星といふ  
 月八つあり又球の周圍に三重の輪あり次



小旋田をる球を天王といふ月六ツあり次  
 一旋田をる球を海王といふ月二ツあり海  
 王の日に遠かる事三億八千八百万里日を  
 一周をる事百六十四年半餘也又日を旋田  
 する事日近き者ハ速く日ハ遠きものハ遅  
 一其數下不言ふが如く諸星皆自軸ありて  
 旋轉をる事地球の如く此を自轉といふ  
 六の自轉して晝夜を為すなり

時刻の解

地球ハ南北に通らる軸ありて地軸  
 といふ此の軸の周りを獨樂の如く日々西  
 へ東へ向て旋轉を其軸の向き方ハ變る  
 事あり又其軸北の天を指す所を北極とい  
 ふ南を指す所を南極といふ故ハ天ハ兩極  
 ありハ地球の軸の指す所をいふ此の所天  
 上ハ亦一定して萬古變る事あり故ハ南北  
 一定したる標的めと東西南の如く  
 旋轉をる由へ何を初と何と終と



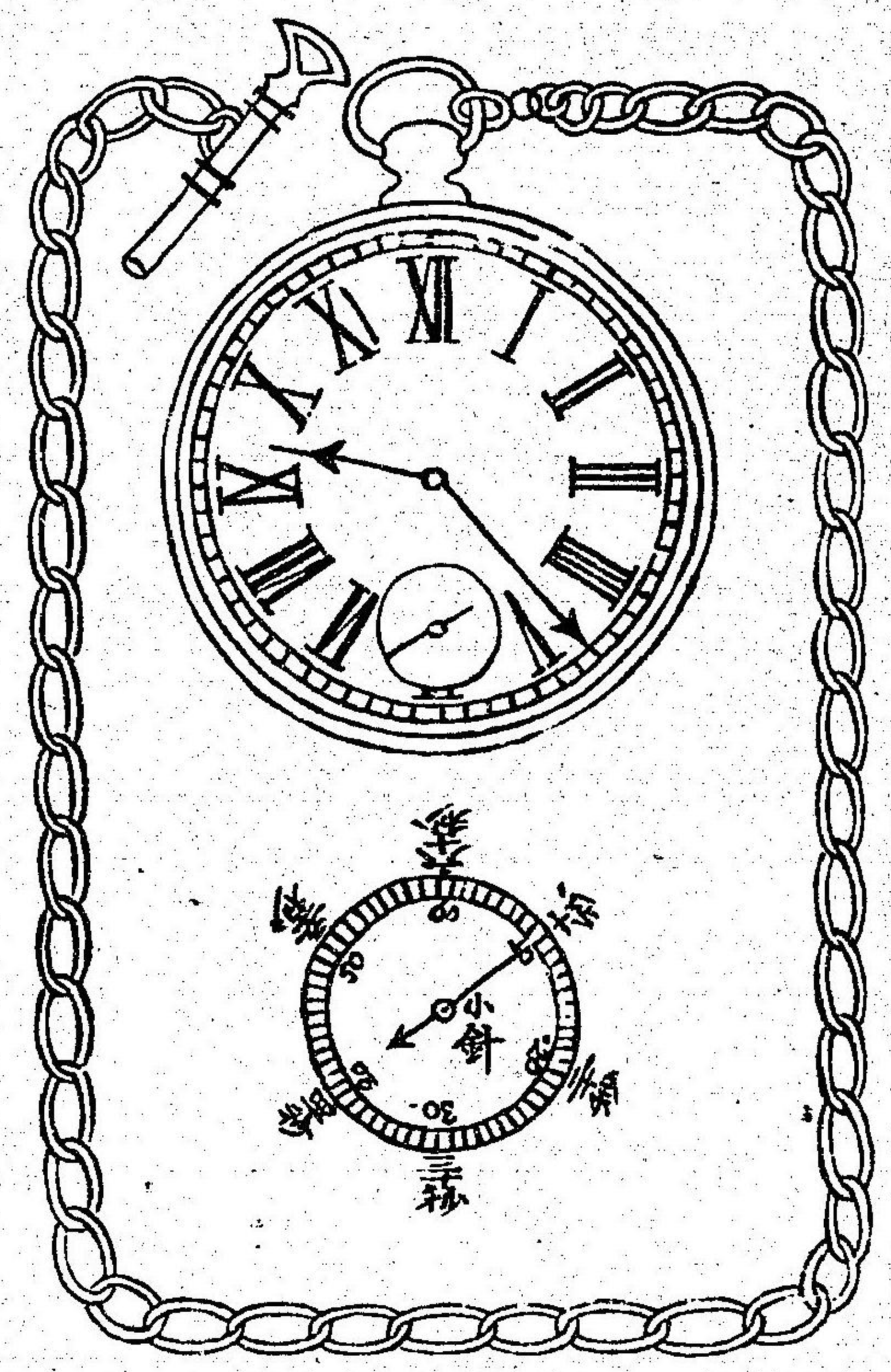
是るべき標的なく故に各地の日中線を以て定  
 むるに日中線といふ畫の正九ツの日  
 る所の線より多く其國の第一なる天文  
 臺のあり所の時中を以て全國の日中線と定  
 むるに又古の歐羅巴諸國も今の如く世  
 界中へ通商する事なれば亞細亞洲の西  
 と亞弗利加洲の北のを知るに今の地中  
 海と世界の正中と思へり故に其地を地中海  
 海と名けし其後段々航海を盛めし今の

カナリヤ島を西の端と思へり其地亞墨利  
 加洲を發檢の前におきたる故に右カナリ  
 ヤ諸島の内鉄島を以て初度として段々東へ  
 何度と算へし又東西の時刻の差あり  
 て東西九十度差へし半日の差あり譬へば  
 本邦にて正午の時亞弗利加洲の東部にて  
 日出たり北亞墨利加の西部にては日の  
 入りおる南亞墨利加のブラジル國にては  
 夜半あり



時刻ハ皇國支那の法一晝夜を分て十二時  
 とふも且おを分て百刻或ハ九十六刻と  
 おも西洋諸國一晝夜を分て二十四時と  
 おも西洋の時我半時わたる毎時六十  
 分毎晷呢六十泄根秒  
 佩携時辰表の時刻比例畧を左示るべし即  
 西洋ハ四季共ハ平等時を用ふ我邦の如き  
 ハ北四節ハ隨て晝夜の長短を異ふを詳  
 之を云ハハ毎日時刻の長短同トからむと

雖も左表ハ據て其大畧を知るハ  
 佩携時辰表盤面の  
 圖分時を指  
 針と分  
 針といふ  
 其ハ長一時を指を者ハ短ハ去を時針と  
 云分針一週をれば時針其時の字の正中と





指と分針ハ十二時間ハ十二週をるかを圖  
 中小輪中ハ画く針と秒針と名くまの針一  
 週をまきバ分針移る事一分あり

氣節ハ暫く從  
 前の曆ハまじふ

日の出時刻

日の入時刻

冬至 十月中

七時十分十二秒

四時四十九分四八秒

大雪 十月節

七時八分二十四秒

四時五十一分三十六秒

小寒 十一月節

六時五十九分二十四秒

五時。分三十六秒

小雪 十月中

六時五十九分二十四秒

五時。分三十六秒

大寒 十二月中

六時五十九分二十四秒

五時。分三十六秒

立冬 十月節

六時四十六分四十八秒

五時十三分十二秒

立春 正月節

六時三十二分二十四秒

五時二十七分三十六秒

霜降 九月中

六時三十二分二十四秒

五時二十七分三十六秒

雨水 正月中

六時三十二分二十四秒

五時二十七分三十六秒

寒露 九月節

六時十六分十二秒

五時四十三分四八秒

啓蟄 二月節

六時十六分十二秒

五時四十三分四八秒

秋分 八月中

六時

六時

春分 二月中

六時

六時

白露 八月節

五時四十三分四十八秒

六時十六分十二秒

清明 三月節

五時四十三分四十八秒

六時十六分十二秒

處暑 七月中

五時四十三分四十八秒

六時十六分十二秒

穀雨 三月中

五時四十三分四十八秒

六時十六分十二秒

新曆月星

五時二十七分三十六秒

六時三十二分二十四秒







五月中十二時	五月中十二時	六月中十二時	六月中十二時	七月中十二時	七月中十二時	八月中十二時
十二秒	一時二分	二十四秒	一時二分	二十四秒	一時二分	二十四秒
二十四秒	二時四分	四十八秒	二時四分	四十八秒	二時四分	四十八秒
三十六秒	三時六分	一十二秒	三時六分	一十二秒	三時六分	一十二秒
二十四秒	四時八分	二十四秒	四時八分	二十四秒	四時八分	二十四秒
十二秒	五時十分	二十四秒	五時十分	二十四秒	五時十分	二十四秒
二十四秒	六時十二分	二十四秒	六時十二分	二十四秒	六時十二分	二十四秒
十二秒	七時十四分	二十四秒	七時十四分	二十四秒	七時十四分	二十四秒
二十四秒	八時十六分	二十四秒	八時十六分	二十四秒	八時十六分	二十四秒
十二秒	九時十八分	二十四秒	九時十八分	二十四秒	九時十八分	二十四秒

十月中十二時	十月中十二時	十月中十二時	十月中十二時	十月中十二時	十月中十二時	十月中十二時
四十八秒	一時四分	四十八秒	一時四分	四十八秒	一時四分	四十八秒
三十六秒	二時六分	三十六秒	二時六分	三十六秒	二時六分	三十六秒
二十四秒	三時八分	二十四秒	三時八分	二十四秒	三時八分	二十四秒
十二秒	四時十分	十二秒	四時十分	十二秒	四時十分	十二秒
二十四秒	五時十二分	二十四秒	五時十二分	二十四秒	五時十二分	二十四秒
三十六秒	六時十四分	三十六秒	六時十四分	三十六秒	六時十四分	三十六秒
二十四秒	七時十六分	二十四秒	七時十六分	二十四秒	七時十六分	二十四秒
十二秒	八時十八分	十二秒	八時十八分	十二秒	八時十八分	十二秒
二十四秒	九時二十分	二十四秒	九時二十分	二十四秒	九時二十分	二十四秒



九月節 十二時	二時六分 三十六秒	四時十三分 十二秒	六時十九分 四十八秒	八時十三分 十二秒	十時六分 三十六秒
八月中 十二時	二時十二分	四時二十四分	六時三十分	八時二十四分	十時十二分
八月節 十二時	二時十八分	四時三十分	六時五十分	八時三十分	十時十八分
七月中 十二時	二時三十分 二十四秒	四時四十二分 四十八秒	七時十分 十二秒	八時四十二分 四十八秒	十時三十分 二十四秒
七月節 十二時	二時三十六分 四十八秒	四時五十四分 三十六秒	七時十八分 二十四秒	八時五十四分 三十六秒	十時四十二分 四十八秒
六月中 十二時	二時四十二分 三十六秒	五時十分 十二秒	七時二十四分 四十八秒	九時七分 十二秒	十時四十二分 三十六秒
四月中 十二時	二時四十八分 三十六秒	五時十七分 三十六秒	七時三十分 四十八秒	九時十七分 三十六秒	十時四十八分 三十六秒

千八百六十六年和蘭頒曆畧表

一月 餘月多し  
を畧す

日躔先二月の盈虚

満月 一日 曉七時七分

下弦 八日 夜九時五十六分

新月 十六日 夜八時五十六分



日躔寶二十日 曉五時三十八分  
 瓶宮 上弦 二十三日 夜九時十四分  
 滿月 三十日 夜八時四十八分

日出日沒及經過

同上 日出 日沒 經過

一日 八時十三分 三時五十分 十二時四分  
 八日 八時十一分 四時三分 十二時七分  
 十五日 八時六分 四時十四分 十二時十分  
 二十二日 七時五十九分 四時二十五分 十二時十二分

二十九日 七時五十分 四時三十八分 十二時三分

月出 月沒 經過

一日 月曜新月 夕四時五十分 朝七時四十二分 零  
 二日 火曜 夕六時 朝八時二十七分 朝零四十二分  
 三日 水曜 同七時十分 同九時三分 同一時三十分  
 四日 木曜 同八時二十分 同九時三十分 同二時二十七分  
 五日 金曜 同九時二十八分 同九時五十九分 同三時十五分  
 六日 土曜 同十時三十四分 同十時三十三分 同四時一分  
 七日 日曜 同十一時三十九分 同十時四十五分 同四時四十五分



八日	月曜下弦	零	同十時八分	同五時三十分
九日	火曜	朝零四十二分	同十時三十分	同六時十分
十日	水曜	同一時四十六分	同十時五十六分	同六時五十分
十一日	木曜	同二時四十八分	夕零二十五分	同七時三十九分
十二日	金曜	同三時四十九分	夕零五十八分	同八時二十五分
十三日	土曜	同四時四十七分	同一時三十八分	同九時十四分
十四日	日曜	同五時四十二分	同二時二十六分	同十時四分
十五日	月曜	同六時三十二分	同三時二十一分	同十時五十分
十六日	火曜滿月	同七時十六分	同四時二十四分	同十時四十分

十七日	水曜	同七時五十四分	同五時三十分	夕零四十分
十八日	木曜	同八時二十八分	同六時四十分	同一時三十分
十九日	金曜	同八時五十七分	同八時	同二時三十分
二十日	土曜	同九時二十五分	同九時十六分	同三時十四分
廿一日	日曜	同九時五十分	同十時三十分	同四時五十分
廿二日	月曜	同十時十八分	同十時四十九分	同四時五十七分
廿三日	火曜上弦	同十時四十七分	零	同五時四十九分
廿四日	水曜	同十一時十九分	朝一時五分	同六時四十分
廿五日	木曜	同十一時五十七分	同二時二十分	同七時三十九分







凡一年と唱ふるに數種の區別あり今其名目の圖解を左に掲ぐ

一年

星家年

圓環年

大陽年

三百六十五日五時

四十八分四十八秒

運行年

恒星年

三百六十五日六時

九分九秒

俗家年

太陽年

三百六十五日  
每四年置一閏

古曆

儒曆

方今魯西亞所用

新曆 天正十年改曆諸國  
共用

太陰年 三百五十五日 或五十六日

九年七閏を置く 和漢印度土

耳其等各小異 同あり

星家年といふ天學家推歩の上から云ふべき

の年にして曆面ふ載まへざる非ざるを云ふ

あり

圓環年といふ大陽白羊宮の初度より漸次ふ







あてゝ曆ふは正月の下ハ水曜値朔日とわ  
 二月以下ハ略して木よう金ようおど記  
 せし皆あれ其朔日の本曜ふして正月元日  
 水曜日おとバ二日木曜日三日金曜日四日  
 土曜日五日日曜日六日月曜日七日火曜日  
 ふして八日ハ必そ朔の本曜ハ復そあれと  
 して諸記し易からしめんが為ハ古人七曜  
 循環の歌を作し其歌ハ曰く一と八十五  
 二十二二十九ハ七つの曜の一めとあり

又西洋の曆ハ日ハ千支を配する事ふりと  
 雖とも但七曜を配する事のと皇國の曆ハ  
 同トくして且つ其當日も亦五ハ符合せし  
 たとへバ昨年十二月三日ハ吾曆ハ水曜  
 日ハ當る彼邦の曆ハ水曜日ハ當れり  
 但其曆法同トからざるゆへハ彼邦ハてハ  
 當日と一月一日とをるおと又法ハ由てま  
 ごと推せば皇國當月當日ハ彼邦の某月某  
 日ハ當ると云ふを知るおと毫も差ふ事ハ

新暦日角

初編

三



其操様ハ二編ニ記さべし

年圖

地動説小述べし如く地球自轉と爲さる  
 已小自轉を爲さる至りてハ獨樂子の心わ  
 るガ如く樞軸おき事能ハどもと地軸と  
 いふ其兩端おれを極といふ以て南北を分  
 つ其北おると北極と云ふ南おると南極と  
 云ふ南北の中間お於て東西ハ圈と造り出  
 すと赤道と云ふ赤道以南を南緯と云ふ以

北と北緯と云ふ南亞墨利加豪斯多刺里亞  
 弗利加等ハ專南緯ハお里亞細亞歐羅巴北  
 亞墨利加ハ專ら北緯ハ在るおり地球一自  
 轉をる毎ハ無度五十九分零八秒と進み三  
 百六十五轉餘ハして日と一周をさると公  
 運と云ふ又年轉と云ふ其間三百六十五日  
 餘ハして其地球の行道を年圖と云ふ又獸  
 帯と云ふ從來黃道と唱へ来りし所お里地  
 球秋より春ハ至りて經る所を北年圖とし

新編明解

初編

三



春より秋に至りて経る所と南年圏とも凡  
 そ諸游星の行圏皆お楕圓にして日及び游  
 星等ハ其中心ハあらざりて偏して其所在  
 と出中點と云ハ楕圓の中心と中點と云ハ  
 故ハ北年圏ハ短くして南年圏ハ長く日ハ  
 出中點ハありあまよせて地球巨蟹宮ハ  
 わまば日ハ近一其間を近距離と云ハ地よ  
 日と望みてハ最卑と云ハ今時ハ大抵冬  
 至後十日ハ當りて磨羯宮ハありて日ハ遠

一ととと遠距離と一最高と云ハ今時ハ大  
 抵夏至後十日ハ當りて白羊天枰の二宮ハ  
 ありて其中心ハ當りて是と中距離と云  
 ハ地球年圏を周旋するの際常ハ兩極互ハ  
 倚る事各二十三度半ハりて中線ハ正く兩  
 極の中間を東西ハ分界して年圏と互ハ斜  
 絡を故ハ北年圏ハ常ハ北緯ハありて南年圏  
 ハ南緯ハありて南北分界の處中線ハ交る即  
 ち春秋二分の候ハ當りて地球ハありて云



ふとれたの中線ハ兩極と其軸とを年圈ハ兩極と距る車各二十三度半の地を軸として互ふおさを貫通を其軸之を年圈軸又黃道軸と云ひ其兩端と年圈極又黃道極と云ふ地球兩極を軸として自轉をよば年圈極も從ひ轉移して圈をふおさを極規と云ふ其北あると北極規と云ひ南あると南極規と云ふ夏至ハ日直ちハ中線以北二十三度半の地と射冬至ハ中線以南二十三度半

の地を射る故ハ地球自轉するの際各其處ハ於て圈をふおさを回歸線と云ふ即ち北緯二十三度半の地あると巨蟹線又夏至規と云ひ南緯二十三度半の地あると磨羯線又冬至規と云ふ冬夏の二至日此線ハ次の謂ふ如く地面日の光線を受るの斜直ハよめて熱勢零圍と貫くの厚薄ありて其地寒暑の分をお取即ち夏ハ北緯諸州炎熱行ハ南緯の諸州ハおさハ反して寒を



一冬ハ北緯寒冷ハ一南緯反テ熱氣行  
 ハ生春秋二分ハ中線ヲ射テ寒暑中等ナリ  
 凡ソ中線ヲ距ル事南北各二十三度半の間  
 ハ日天頂ヲ過ル事アテ最モ炎熱ハ偏カ  
 故ハ此れヲ熱帯ト云フ一年の内ハ八時  
 七時ナリ春夏秋冬各ハ吐哇錫蘭等皆此ノ  
 内ハ小なり此ノ距ル事南北各四十三度ノ  
 間ハ諸州ハ四時正しくテ寒暖和平ナ  
 故ハ此ノ正帯ト云フ日本支那英佛等

皆此内ハ小なり此ノ距ル事南北各四十三度ノ  
 間ハ諸州ハ四時正しくテ寒暖和平ナ  
 故ハ此ノ正帯ト云フ日本支那英佛等  
 氣最も酷く一テ海水氷凝モルハ至ル故ハ  
 此ノ寒帯ト云フ卧爾蘭土尖山等皆此ノ  
 内ハ小なり以上熱帯一箇正帯寒帯ハ南北  
 小各一箇此ノ合せて五帯ト云フ熱帯ト  
 正帯トハ蟹羯ノ兩田歸線ト界ト一正帯ト  
 寒帯トハ極規ヲ界トスルナリ又人地面ハ  
 此ノ其眼心ヲ界ト一太虚ト分ち上下各  
 一百八十度ト一其分界ノ處ト視地平ト云



凡そ一切の天象の正を以て其出沒の界  
 とするあり又眼を地心か游ばくを視地平  
 小倣ひて太虚を上下か分つあるを正地平  
 と云ふ凡そ視地平と正地平と相距る事即  
 ち地球半徑あり又其視正兩地平の心を透  
 して地球を貫きあると地平軸と云ふ地平  
 軸の兩端と地平極と云ひ其上か當る所の  
 極上を天頂と云ひ下か當る所の極下を合  
 距と云ふ凡そ朝か日晨昏圈の中を東方

已か明々あり此より日地平か臨むの間を  
 晨と云ふ暮か日地平か入るとも西方尚餘  
 光あり已か晨昏圈の中を全く夜陰と云  
 る其間を昏と云ふ從來の領曆節氣の下か  
 日の出入とあるは日地平か臨むの時を云ひ  
 六より六迄とあるは晨昏圈の中をの時を  
 云ふ凡て晨昏の其地中線か近りとは短  
 く兩極か近ければ長し凡そ明暗圈と地平  
 とは日の出沒を以て云ふ寸へ全く同トと



いへとも其實ハ太ど別あり明暗晨昏の兩  
 圈ハ日ハ從ひて移る故ハ兩極規内の地ハ  
 テハ或ハ全クおとあとき時あり地平ハ其地  
 固有して變る事あり又中線極及び地平  
 極を連ねて圈を造りおれを子午規と云ふ  
 子午の兩時日此規ハ中かの謂ふと日本と  
 天頂とをれば北極地平と出る事三十餘度  
 南極地平ハ入る事亦三十餘度夏ハ晝長  
 く夜短く冬ハ晝短く夜長し中線と距る事

愈遠ひまハ長短愈太とく兩極規内の地  
 小至りてハ數日日没せどして晝をかり或  
 ハ數日出てハ夜をかその時あり所謂夜  
 國とハおれおと已ハ兩極ハ於てハ半年を  
 晝とハ半年を夜とそ其晝の際ハ日地平上  
 を周旋するありおれ亦其極規内の地を天  
 頂ハ當るとして理會をべし今兩極規内の  
 諸州其極と距るの遠近ハ隨ひて晝夜の日  
 數多少あると知るの表と製する事次の如し



北極出地	夏至前後日 不入地下之日數	冬至前後日 不出地上之日數
南極出地	冬至前後日 不入地下之日數	夏至前後日 不出地上之日數
六十七度五十分	四十二日	三十九日
六十九度四十六分	六十二日	五十八日
七十二度十一分	八十三日	七十八日

七十五度八分	一百零三日	九十八日
七十八度二十九分	一百二十五日	一百十八日
八十二度九分	一百四十六日	一百三十八日
八十六度二分	一百六十六日	一百五十八日
九十度	一百八十七日	一百七十八日

右大畧と云ふのこゝろと詳ふるハ二編ハ讓

新曆明解初編終



門人 横田重登

明治六年一月十日

男

梁太郎 全校  
洲吉

新曆明解二編

嗣刻

黒田行元著述

新曆明解

二編追刻

官許 明治六年二月開版

京都

石田治兵衛

石田忠兵衛

松井榮助

書林

須原平左衛門



